

議会運営委員会会議録

(閉会中 平成30年 8月 7日)

長 与 町 議 会

長与町議会運営委員会会議録（閉会中）

本日の会議 平成30年 8月 7日

招集場所 第1委員会室

出席委員

委員 長	喜々津 英 世	副 委 員 長	金 子 恵
委 員	安 部 都	委 員	西 岡 克 之
委 員	岩 永 政 則	委 員	河 野 龍 二

欠席委員

なし

出席委員外議員

議 長	内 村 博 法	副 議 長	山 口 憲 一 郎
-----	---------	-------	-----------

職務のため出席した者

議会事務局長	谷 本 圭 介	議 事 課 長	富 永 正 彦
課 長 補 佐	細 田 浩 子		

本日の委員会に付した案件

- (1) 町制50周年記念事業について
- (2) その他

開 会 9時30分

閉 会 11時47分

○委員長（喜々津英世委員）

皆さんおはようございます。定足数に達しておりますので、本日の議会運営委員会を開催したいと思います。なお、今日は議会の町制施行50年の記念事業関係の会議でありますので、広報広聴常任委員会の饗庭委員長にも参加をお願いしとったんですが、ちょうど今日までよそに行っておられて参加できないという連絡を受けておりますので、報告をしておきます。なお、今日は御案内のとおり傍聴者が1人お見えでありますので、よろしくお願いいたします。

事件番号1の町制施行50周年記念事業についてというところで協議を進めたいと思っております。この右肩に30年8月7日議会運営委員会と書いた両面刷りのペーパーがあるかと思えます。これに基づいて進めていきたいというふうに思っております。これは私の方でたたき台ということで作成をしましたので、私の方から説明をさせていただきたいと思えます。表題が町制施行50周年議会記念事業企画書素案としております。はじめにとして、昭和44年、1969年1月1日、人口1万3,200人余の長与町が誕生し、平成31年1月1日に町制施行50周年を迎え、長与町は長崎市のベッドタウンとして急速に都市化が進み、現在人口は4万2,200人に増加し、全ての面で長崎県1を誇る町へと発展をしている。二元代表制の一翼を担う町議会は、町長など執行機関と共に町政の発展及び町民福祉の向上を目指して努力してきた。町制施行50周年記念事業として、議会の50年の歩みを記録すると共に議員及び議会事務局職員が一丸となって努力している議会改革などについて、現状を取りまとめ発行することは意義あるものと考えerということ、まず、記念事業の1ということ、長与町議会50周年記念史、議会史ですね、及び議会白書の発行ということ、編集は現在発行してる議会だより編集に準じて行い、前段が議会50年史、後段が議会白書の形式とする。（1）議会50年史の編集ということ①から④までしておりますけれども、当時の議員名、その任期中の主な出来事について併記をしていくと。並べて記録したらどうかということでございます。主な出来事は原則として、町政あるいは議会に関するものということを考えております。2番目が議会だよりの第1号は52年3月議会号から議会だよりが発行されておりますので、その前の8年間ばかりは会議録等を見ながら主な出来事は調査をしていくということになるかと思えます。それから③が写真は電子データが無いものは議会だよりにスキャナーで取り込むとしておりますが、私はこれができるかどうか分かりませんが、なるべく写真等も入れた方が読み手にとっては分かりやすいかなと。④がページ数は15ページ以内とすると、もう勝手にしております。とりあえずさっと流していきます。議会白書の編集ということ、議会の仕組み、活動内容等について取りまとめた形式とし15ページ以内とする。これは①からずっと定数、任期、構成、議員名、党派別議員数、委員会構成、議員報酬及び町長等の給与も比較できるようにしたらどうか。費用弁償、議員の期末手当、議会費が4年分の比較表、議会運営の状況ということ、本会議とか委員会それから全員協議会等もありますけれども、

こういったものを書く。議案の件数、執行部提案、それから議会あるいは議員提案というそういったまとめ方になるかと。それから請願及び陳情の内容、調査・研修活動ということで、各常任委員会とか議会運営委員会、あるいは議員研修会等についてまとめると。次のページ15番目が広報活動ということで、議会だより、議会ホームページの開設、会議録の公開等について紹介をして。それから16番17番18番19番、これは議会の仕組み等について長与町議会まるわかりとかいうことでこういったものを。議会を知る、チェックするというので、傍聴等について説明書きをする。議会に参加するという項では、請願陳情のやり方とか、あるいは平成30年分の実績とかそういったもの、あるいは議会報告会や住民懇談会の実績内容。それから議会改革の取組状況については、これはよその議会から視察に来られたときに、本町の取組状況について議会事務局でまとめたものがありますので、こういったものをここに付け加えていくと。それからできれば紙面の都合、予算の都合もありますけれども、他議会の状況を見てみますと、巻末の資料ということで議会基本条例とか政治倫理条例とか、そういった主な議会が制定した条例等について載せておりますので、そこら辺ができればなという思いがしております。そしてこの2番目の編集ですけれども、議長からは、議会運営委員会の委員それから広報広聴常任委員会の委員長と言ったところで検討していくと、この議会運営委員会でもそれで一応決定をしておりました。ただ、この段取りをするまでという感覚でおりましたので、これが本格的に進むとなると、例えば特別委員会を設置をしてやったらどうか。その場合委員はどうするかという問題、6名から8名程度を考えておりますけれども、皆さんの意見を聞きたいと思っております。③が任期は発行日までと。注意書きには今申し上げたようなことをまとめております。発行予定日を31年の1月末ぐらい。議会だよりの中で50年の特集号ということでその分ページを増やして全部やるということになると、1月1日が50周年ですから1番いいタイミングは1月の17日か18日の議会だより発行に間に合わせるというのが1番ベターですけれども、ここら辺が果たして日程的にどうなのかなというのを検討をする必要があるかと。ただし31年の4月は統一地方選挙がありますからもう3月の定例会もありますし、とてもじゃないけど各議員そこまでの余裕がなかろうと、そうするとやっぱり前倒しでこれを作り上げていくということが必要じゃないかなというところに書いております。発行部数がこの前は1,000部から2,000部ということで、ちょっと意見も出ておりましたけれども、これは議会事務局の方も簡単な現段階での見積もり等も取ってくれておりますので、あとで事務局から説明をしてもらいます。それからこれを発行するとなると自治会に入ってる全世帯に配るとするのが良いかもしれませんが、果たしてそこら辺がどうなのかなというふうに思っておりますので、これもあともって協議をしていただきたい。経費も同じですね。それから下の方に記念事業の②ということで議場コンサートの開催、別紙参照ということで、金子副委員長が若干調査してくれたペーパーを作ってきておりますので、このあと説明をしていただきたいと思っております。記念事

業の③ということで、記念講演会の開催ということの案も出ておりました。この3つを柱として記念事業をどうするかということを組み立てていければなというふうに思っております。とりあえず私の方の説明はこれで終わり、次に記念事業②の議場コンサートの開催の件で金子副委員長から説明を申し上げます。

金子副委員長。

○委員（金子恵委員）

簡単ではございますが御説明申し上げます。8月の頭に議場コンサートの件で中学校の方に赴きました。そちらの方で吹奏楽部に来ていただくとなった場合の課題、意見要望等をお聞きしてまいりました。この表には一応分けてるつもりですけれども、ちょっと課題にも要望にもならないようなことを書いておりますけれども、そちらの方は御了承願いたいと思います。まず、吹奏楽部の方がコンクールが9月上旬にあるということと定期演奏会がある。こちらの終了後3年生が引退するので新チーム1、2年生での演奏が可能かというのが1番不安ということでお話を伺いました。ですから、これにはもう演奏時期を早めに決めていただいて、その時点での可能な演奏するということで、どうか対応ができるだろうということです。あと演奏時間ですけれども、こちらの方はその時間によって曲目を決定するということで、段が別になっておりますけど、2曲10分程度、皆様入学式の方に行かれたことがあるのでよく御存じかと思っておりますけれども、あのかの演奏時間が10分なるかならないかの演奏時間で、そのくらいであれば1、2年生でも対応はもう十分可能ではないかということでした。その時間ですけれども、入れ替え時間を含めた時間の提示をしていただきたいということです。議場コンサートの開催日が例えば日程が決まっておりませんので、1月1日以降の3月下旬というふうになった場合、吹奏楽部の顧問の異動があったりするらしいんですね。こちらが3月20日ということで、そのときの対応が心配ということで顧問の方は言われたそうなんですけれども、子供たちが演奏する場というのをもらえることは、生徒にとっては良いことだから進めていただきたいというお話でした。楽器の搬入方法ですけど、いざ議場コンサートを決定した場合、3校の場合と1校の場合でトラックの対応をどうするかを検討を行う必要があるということで、開催決定がなされたら3校の吹奏楽部で協議をしますということでした。9月1日に長与町の社会福祉大会がありますが、今年度の担当が長与中学校ということで、4トントラックを1台予約をしているそうなんですけれども、こちらの方は3万円前後の経費が掛かるということです。この4トントラックであれば3校同時に搬入が可能ということなので、1台ですと例えば長与中、二中、高田中というふうに順繰りに回って、役場の方に来ることができるので、そちらの方は1台分でもいいのではないかとということでした。日程についてですけれども、こちらの方が平日日程ということであれば、校外学習ということで位置づけは可能なんですけれども、できれば長期休暇中が適当ではないかというふうに考えるというお話でした。春休みの場合、終業式の1週間後ぐらいの開催がいいということで、こちらの理由としては、終

わってから1週間みっちり議場コンサートに向けての特訓が出来ると、練習ができるということでした。これは校長先生の意見だったんですけども、複数校の場合、3校の場合入れ替え時、時間が何分あるのか分からないんですけど、中学生にインタビューを行って時間の有効活用してはどうかという校長先生からの意見がございました。簡単ではございますが、事前調査以上です。

○委員長（喜々津英世委員）

今それぞれ準備をしたペーパーに基づいて説明をいたしました。これから自由に議論をしていきたいと思えます。暫時休憩して議論に入りたいと思えます。

（暫時休憩）

○委員長（喜々津英世委員）

休憩を閉じて委員会を再開いたします。

今いろいろ御議論をいただきました。基本的には当初スタートしたとおり議会の記念誌あるいは白書、議場コンサート、講演会、こころ辺をセットし、セットというか3つとも生かした上で企画書を作り上げていくと。この講演会については先程事務局長も提案をしてくれましたので、そこら辺も考えて議場コンサートとセットしていければ、なお良いんじゃないかなと。そういう意味もありますので、そういったことで企画書を次に提案したいと思えます。

御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

そういうふうにしていただきたいと思えます。

それでは前後しましたけれども、元に戻しまして企画書の素案ということでありまして。まず議会の50年史、今、議長からも他の議員からも何かそういったものをという意見もあったという話も出ましたけれども、私自身も是非これは50年だから記録として議会誌を作る責務が我々50年を迎える議員はある。そういうふうにおもっておりますので、これはどういう内容になるかということについてはここに書いておりますけれども、町制施行当時の議員名、主な出来事ということをやまず50年史としてはずっと併記をしていくと。そして可能な限り写真も入れ込んでいって、手に取って読んでもらえる記念誌にしたいなというふうにおもっております。先程言いますように52年3月議会からの議会だよりがありますので、こころ辺以前が会議録をひっぱり出さんとなかなか分かんないと、主な出来事っていう部分ではですね。考え方としては、44年当時から現在までのそれぞれの議員名、会期というのかな。それを併記するという形で進めたいと思えますが、皆さんから御意見をいただきたいと思えます。

河野委員。

○委員（河野龍二委員）

私も方向性としてはそういう形が1番記念誌としては良いのかなというふうにおもうんですけど、議会だよりは52年の3月議会から発行されてますけど、町の広報はどうな

とっとなんか思っただけですね。町の広報に議会の状況というのが載ってらんものなのか、町の広報の中でも、町の広報はあくまでもお知らせだったのか、その辺がどうなのか。以前は行政の広報に議会だよりが一部載ってたりする議会もあったんですね。その辺はどがんか思っただけで、もしそういうのが活用できればそういう部分で比較的その議事録から抽出するよりは、そういう作業が楽になるのかなというふうにちょっと思っただけで、その辺もちょっと調べてみたらどうかなというふうに思っただけです。

○委員長（喜々津英世委員）

私も長年の郷土史かな、あれも若干調べたりして私なりの考え方で作っておりますけれども、今日はまだそこまでいかないと思っておりますので、出しておりませんけれども、今、河野委員が言われた町の広報紙からひっぱり出すというのも1つの手でありますので、これは議会事務局も一緒になって町の広報紙の調査をやりたいと。

岩永委員。

○委員（岩永政則委員）

今の河野委員のことなんですけども、52年以降は議会が独自に発行したわけです。だからその前の議案の議決とかそういうものは町報でお知らせをしておるんですよ。それしか住民にはないわけですので、議案名とかそういうものをずっと載せるといふふうに思っただけで、それから引っ張ったら1番手っ取り早いんじゃないかなと思っただけです。

○委員長（喜々津英世委員）

是非その方向で。会議録から引っ張り出すというのは非常に難しいというふうに思っただけです。ですから、当時の会議録が要点筆記なのかどうか分かりませんが、そういう方向で進めてみたいというふうに思っております。50年史議会誌については、1番初めが42年5月6日から46年の4月29日まで18人の議員がおられる。今日皆さん方からおおよその考え方を示していただければ、それに基づいたところで、私なりに作った資料がありますので提案をさせていただきたいと思っただけです。要するに議員名とその4年間の主な出来事、それを一覧性のあるものにして、なおかつ写真があれば写真も付けてという編集の仕方ができればなと思っただけです。それでよろしいですか。ありがとうございます。そういうふうにさせていただきたいと思っただけです。

次にせつかくの機会ですから、今のは議会の50年史ですよ。今のこの期のメンバーでどういうことをやってきたのか。議会改革等をひっくるめてですね。例えば議会報告会をしたとか住民懇談会をしたとか、そういったものを書く。私個人としてはやっぱり今、議会改革の進んだ所というのは、ほとんどもう議会白書ということで毎年作っておると。この前、町田市でしたか、議会事務局が持つデータでずっと更新をやって、議会は関与せずに事務局だけで作るといふ、あそこは議会だよりの多分事務局だけで作るといふんですが、そこまで事務局におかぶせるわけにはいきませんので。1番初めが大変だと。あとはスムーズにいきますよというのがこの前の事務局の方の説明だったと思っただけですが、そういった意味では、大々的に作るということになると大変

な作業も出てくる。前例を調べてみますともう180ページぐらいからなる議会白書というのはざらにある。この前広報広聴常任委員会が行った長野県の飯綱町辺りもかなり白書には力を入れてやっておるということで、将来次の議員達がどういう判断するか分かりませんが、50年記念としての白書という捉え方で私は提案をしたいなど。あんまり仰々しくしないで、できる範囲で議会の今について町民の皆さん方に知っていただく。議会報告会とか議会だよりだけでお伝えできない部分をこの議会白書という形で、町民の皆さんにお伝えをするという考え方の議会白書、かなり項目が大きくなっておられるかもしれませんけれども、ほとんどのデータはもう事務局が持っているのを加工するだけという格好ですので、これについてはもう是非発行したいなというふうに思っておりますので、これについて御意見を伺いたいと思います。

暫時休憩して議論を進めていきます。暫時休憩してと言いましたけれども、もう1時間たちましたので、場内の時計で10時50分まで休憩をいたします。

(休憩 10時40分～10時51分)

○委員長（喜々津英世委員）

休憩を閉じて委員会を再開をします。

2ページ目をお開きいただきたいと思います。1ページのどういうものを作るかというのは具体的に委員会等で私は検討をしてもらいたいと思いますが、大きな項目の2番目で、編集ということで特別委員会の設置を考えております。そうすると一応議運としては、どういう考え方で委員会を作っていくかということについては少し議論をやりぱりしていきたい。この議運のメンバープラス広報広聴常任委員長だけというわけにはやりぱりいかないんじゃないかなと。やりぱり議会としての対応ですので、そこら辺でどういうふうにした方がいいかということについてこの特別委員会の設置と委員の数、これについて議論を進めていきたいと思います。暫時休憩して進めます。

(暫時休憩)

○委員長（喜々津英世委員）

休憩を閉じて委員会を再開をします。

議会50年史等編集特別委員会というのを設置すると。これについては全議員が参加をしてやっていく。その中で役割分担をしながら、ワーキンググループという形になるかと思いますが、いくつかに分かれて議論をしていくと。作り上げていくと。そういう方向で進めたいと思います。

御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

異議なしと認めます。

次に3番目の発行予定です。これについては1月1日では町制施行50周年ということ、来年の1月1日ですね、ということであれば、タイミングとしては1月に発行するのがいいのかなと、それは1つにはそのタイミングの問題もありますし、統一地方選挙

こういったものが、あとに控えておるといふことも考えると、やはり若干日程的に窮屈になりますけれども、前倒しでやる必要があるというふうに思っております。これについて皆さんの御意見を伺いたいと思います。

河野委員。

○委員（河野龍二委員）

今この流れを見た中では議場で記念事業をやるならば、できればその時までに出来たら良いのかなというふうに、ちょっと記念事業と合わせてやっぱり発行が間に合えばなというふうに思います。ただ、さっきの話からすると、もし議場コンサートするなら1月の頭っていうことですから、それまでにというふうになると非常に厳しいかなというふうに思うところもあるんですけども、もうせつかくなれば記念行事が行われる時にすでに皆さんの手元にあるというのがベストかなというふうに思います。希望です。

○委員長（喜々津英世委員）

そのコンサート等の問題が1月の冬休み期間内と1月の7、8ぐらいという具体的な日にち設定もあります。そこにその事業をやるということであれば、それに合わせるという御意見であります。他に。

金子委員。

○委員（金子恵委員）

私も今の河野委員のおっしゃったことにちょっと賛成するんですけども、議場コンサートに来られた方に手渡しができるなと思ったんですよ、今一瞬。全世帯配布とか、そういうことまでにはならないと思うので、となればやっぱり何らかの記念事業として、そこでその議会白書をお渡しできる、来られた方はお渡しできるっていうのが本当ベストかなというふうに思います。1月の場合ですね。

○委員長（喜々津英世委員）

まずその発行予定については、1月の7、8に議場コンサート、今から打ち合わせをしますけれども、あるいは講演会、これをするとしたときにそれに合わせて50年史、議会活動報告書の概要、こういったものが手渡しできるようにという意見がありましたので、そういうふうに計画をしたいと思います。

御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

それと発行部数と経費は関連がありますので、今から事務局が概略の見積もりをしてくれておりますので、これをちょっと報告をいたします。

谷本局長。

○議会事務局長（谷本圭介君）

町制50周年記念議会だより関係ということで、ざっくりの見積もりを頂戴いたしております。まず1,000部で25万ほど、そしてこれが2,000部になると29万円ほど掛かるだろうという見込みの見積もりをいただいております。これはA4サイズで

カラー印刷でページ数32ページの場合です。以上です。

○委員長（喜々津英世委員）

1,000部刷ろうが、2,000部刷ろうがという状況のようではけれども、できれば2,000部ぐらいは欲しいなど。

山口委員。

○委員（山口憲一郎委員）

ページ数等普通の作り方での費用だと思いますけども、先程から出ております表紙をちょっと高価、程度を上げた場合の見積もりはここに入っとらんとですか。そしたらどのくらいになるとか分かんいですね。

○委員長（喜々津英世委員）

局長。

○議会議務局長（谷本圭介君）

これはあくまでも議会だよりと同等でっていうことですので、表紙がもう少し豪華になるとか、製本の仕方が変わってくるとかっていうのが決まれば、また、どれぐらい掛かるかの見積もりをお伺いすることは可能とは思っております。

○委員長（喜々津英世委員）

とりあえず2,000部発行ということで進めたいと思います。

御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

では、そのように計画をしていきたいと思います。

次に5番目の配布、配置予定ですけれども思いつく所、町の公民館とか図書館とか、あるいはその他の公共施設、町内の小中学校とか、高校もあります。金融機関とか郵便局とか、あるいは3番目は自治会ほか各種団体長辺りにも配布したらどうか。これについては、昔、各種団体の名簿等、個人情報あまりやかましくない頃は、議員ももらったんですが、そこら辺は行政の協力も得て、郵送という形になろうかと思っておりますけれども、配布ができないかなど。その他思いつきませんでしたのでその他という格好でくくっております。これについては何か意見がありましたら伺いたいと思いますが、こういう所も配布したらどうかって思いつく所があれば発言をお願いします。

内村議長。

○議長（内村博法議員）

役場の方は配るんですかね、役場にも配った方がいいかもしれませんね。長与町に長与町どのレベルまで配るか分かりませんが、職員全員かそこまでいくのか。

○委員長（喜々津英世委員）

ほかにありませんか。これはまた具体的に特別委員会で整理をしていくということになりますけれども、一応、議会運営委員会の素案として出したいと思います。

山口委員。

○委員（山口憲一郎委員）

先程委員長が言われたとかどうか分からんとですけども、議員OBなんかはやっぱり、初めて事ですけども、議員OBそう余計は、今存在している人だけ。

○委員長（喜々津英世委員）

今、議員のOBの方にもということで、これもつけ加えたいと思います。

ほかにありませんか。

金子委員。

○委員（金子恵委員）

当然含まれてると思って言うつもりなかったんですけど、もちろん議会モニターも中に入るのかなと思うんですけど、議会広報モニター。

○委員長（喜々津英世委員）

今、広報モニターという話も出ました。つけ加えたいと思います。いずれにしても今、西岡委員も言われたように最終的には今後検討していくと。議運で思いつく範囲はなるべく整理をして提言ができるようにしたいと思います。配布先、配置先こういうふうにさせていただきたいと思います。よろしいですか。ありがとうございます。あと中学校との問題については、金子副委員長が担当してくれておりましたので、今後、3中学校やるのか、どっか1校だけでもやるのか、先程1校だけしたときに何でうちには声の掛からんやったとかという問題も出てきますので、教育委員会の協力も得ながらそこら辺の調整は正副委員長に一任をさせていただきたいと思います。よろしいですか。ありがとうございます。記念講演については先程具体的に小値賀の議長という話も出ましたけれども、これについても、もう少し内容を詰めさせていただきたいと思います。よろしいですか。河野委員。

○委員（河野龍二委員）

特に案というものがあるわけではないんですけど、仮に議場コンサートをやるというふうになった場合には、僕はいろんな音楽があると思うんですよね。いろんなその音楽にはテーマがあったりだとか背景があったりだとか、なぜこういう音楽が生まれたかっていう部分が、そういうのを音楽の先生に話してもらいながらコンサートするのも良いのかなと思うんですよね。例えば中学校に2つ曲ぐらいしてもらったと。この曲はどういう背景で生まれて例えばそこが市民のいわばいろんなクラシックでもありますが、市民の戦いの中からそういう歌が生まれただとかね。そういう市民革命の中からそういう歌が生まれた。議会も1つのそういう制度だと思うんですよね。やっぱり市民の運動の中からこういう議会制度というのが生まれたという意味では、この音楽というのはそういう中でこういう音楽が生まれたんだっていうのが、音楽の先生辺りだとか、歴史の先生辺りだとか、特別どっかから講師という形でなくて、そういうのも踏まえながらやってもらおうと良いかなって思ったんで、参考までに聞いていただければと思います。

○委員長（喜々津英世委員）

今、河野委員からは曲が生まれた背景、非常に難しい問題も出てきましたけれども、そういった問題については、学校側との協議の中で指揮者あるいは部長なり何なりから説明してもらおうということも可能だと思います。講演とはまた別の問題になりますので、講演は講演、コンサートはコンサートという形で進めたいと思います。ほかにありませんか。ないようでしたら次回、定例の議会運営委員会は27日、この前に1回やりたいと思います。ちょっと準備があるので17日ぐらいどうですか。金曜日です。では17日の9時半から次回の議会運営委員会を開催したいと思います。ほかに皆さんからは。

議長。

○議長（内村博法議員）

先程ちょっと副委員長からこの資料をいただいたんですけども、50年史のそれから白書の素案をいただき、これなかなかうまく出来とったですね。これを次回こういうイメージになるというのを出されたらどうですかね。ぱっと見た限りでは非常に分かりやすいイメージかなと思ってます。せっかく作られていますのでこの素案を出してもらえばイメージが皆さんしやすい。さっきの50年記念誌、例えば写真を付けたり祝辞とか。

○委員長（喜々津英世委員）

今、議長からたたき台として提出したらどうかということで、提出をしてよろしいですか。そのようにさせていただきます。

本日の委員会はこれで閉会したいと思います。お疲れさまでした。

（散会 11時47分）